**■専門部会からの報告**

**資料２**

**令和６年度　子ども支援部会　報告書**

|  |
| --- |
| **第３回子ども支援部会** |
| 日時：令和６年１２月２０日（金）　午前１０時００分 |
| 会場：品川区役所２５２会議室 |
| 概要：１　自立支援協議会報告 |
| ２　子ども家庭センターについて  　　　　　　第２回の部会で当該センターが令和７年度より設置されること  について、子ども家庭支援センターの担当者より概要の説明が  あり、今回はその追加説明があった。  ①「子ども家庭センター」は組織ではなく、子ども家庭支援セ  ンターの１機能であり、３保健センター内にも職員が配置さ  れる。  　　　　　　②今後について  　　　　　　　・相談がある場合は、これまで通り子ども家庭支援センター  が窓口となる。  　　　　　　　・継続的な支援が必要と判断された場合、サポートプランを  作成する。  　　　　　　　・サポートプラン作成時は各関係機関と連携ながら作成し、  サポートプランの内容は関係機関にも共有される。  　　　　　　　・現在継続支援中のケースでサポートプランの作成を予定し  ているケースは６０件程度ある。 |
| ２　テーマ検討について |
| 前回に引き続き、障害児福祉計画に含まれている「福祉・保  健・教育等と連携強化し、きめ細やかな支援を行う」の内容に  ついて意見交換を行った。  前回事前に募った「連携」をテーマにした事例から大きく８  つの課題があげられた。その中から５項目について全体で課題  を掘り下げるために、具体的な内容について意見を出し合っ  た。また、１項目の課題と解決へ向けてグループワークを行っ  た。 |
| （１）各課題について意見交換  【課題１】社会性を身につける等、放課後等デイサービス  の支援内容の充実について  　　　・希望する事業所に行けないケースあり。預かりニーズ  も増えている。  　　　　　　　　　・中高生に合った放課後等デイサービスを希望するニー  ズが増えている  　　　　　　　　　・事業所での送迎や医療的ケア児向け放デイの希望あり。  　　　　　　　【課題２】学習支援の場が必要について  ・就学前の段階から読み書きの支援ができれば就学後に  勉強についていきやすい。  　　　　　　　　　・放課後等デイサービスではできるが、学校ではできな  いケースがある。  　　　　　　　　　・不登校児向けにオンライン等の別な形でのサポートが  あるとよい。  　　　　　　　【課題３】外国籍家庭への支援について  ・多言語化している。学校等でも日本語が話せないケー  スもあり。タブレットや個人のスマホ等で対応してい  る。  　　　　　　　　　・療育先ではジェスチャー等で対応している。  　　　　　　　【課題４】障害児専用のショートステイについて  　　　　　　　　　・高校卒業が近いお子さんに、学校から自立ヘ向けた体  験の場をショートステイで設けたいとのニーズあり。  　　　　　（２）グループワーク「移動支援の人材確保と交通手段について」  　　　　　　　【課題】  　　　　　　　　　・兄弟姉妹がいる家庭では、児童発達支援でも送迎が必  要な場合もある。  　　　　　　　　　・移動支援の事業所からは時間の短さやリスクの面から  子どもは大人よりサービスを提供しにくいとの話あ  り。  　　　　　　　　　・特別支援学校のスクールバスに乗れないケースがあ  り、送迎のために保護者が仕事をやめなければならな  いケースがある。  　　　　　　　　　・放課後等デイサービスで送迎を行う事業所が増えてほ  しい。  　　　　　　　【解決に向けて】  　　　　　　　　　《人材確保》  ・ヘルパーが隙間時間を使って支援できるような仕組  みを事業所で検討してもらう。  　　　　　　　　　　・移動支援事業者への経済的支援を考えてもらいたい  ・『他区の状況』  　　　　　　　　　　　＊ヘルパー講習費用助成を実施しており、研修修了  後は２年間区内事業所で働いてもらう（荒川区）  　　　　　　　　　　　＊研修修了後に事業所に登録し、働いた場合は研修  費用を後払いする（世田谷区）  《交通手段》  ・車両による送迎  ・移動手段としてタクシーを利用した場合の補助  ・特別支援学校の下校時のバス活用    （グループワーク時に上がった意見）  ・ヘルパーの高齢化が進んでいるため、若いヘルパー  　の確保（高齢の方だと動きのあるお子さんの対応  が難しい）。  　　　　　　　　　　・移動支援にかわる移動手段  　　　　　　　　　　・特別支援学校のスクールバスにヘルパーが同乗する  　　　　　　　　　　・ファミリーサポートで受入れを増やしてもらう  　　　　　　　　　　・動きがあるお子さんだとリスクが高い。そのリスク  を減らすことができる仕組み |
| 出席：部会長　品川区旗の台障害児者相談支援センター施設長  　　　　部会員　品川児童学園　１名  相談支援９事業所１２名  　　　　　　　　保健センター２センター２名  　　　　　　　　子ども家庭支援センター１名  　　　　　　　　保育施設運営課１名  　　　　　　　　教育総合支援センター２名　　　　出席者２０名 |